

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スペースあい（多機能型 児童発達支援みい）		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 5日	～	R8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)
			5名
○従業者評価実施期間	R8年 1月 5日	～	R8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)
			5名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	川添理論ってすごい！！	歩行困難なお子さんもこの遊び・雑巾がけ遊びを通し積極的にアプローチすることで走れるようになった事例もあるので、毎日コツコツと続けていく。できたらたくさん褒める。できなくてもそこまでの過程を認めていく。その子の持っている能力を信じて待つこと。	お子さん一人ひとりに合った支援プログラムを立てる。その為にも知る事、見極めることスキルUPを大切にする。今後子どもたちとの信頼関係作りはもちろんのこと、スタッフ同士もコミュニケーションをとりチームで進めていく。
2	・多世代チームで発想の転換！！ ・少人数がからできることたくさん！！ ・放デイと同じ施設を使っている。	・世代ごとに異なる価値観、人生経験、視点を持つため、問題解決や意思決定において包括的かつ革新的なアプローチが可能。得意不得意の分野も無理なく分け担当。・少人数で目が行き届くこともあって施設内だけでなく、散歩やハイキング・お買い物体験・たぐみの里・公園など野外活動にも積極的に取り組んでいる。・交流することもでき小学校に行ったらこうなりたいのイメージがつく！！	これからもスタッフ間・子どもたちの理解を深めチームで支援協力していく。活動の範囲も増やせるよう情報収集を続ける。今後、もっと日常の中で放デイと児童の行き来を増やせるように検討していきたい。
3	・毎日の愛情たっぷりの母手作り弁当♥ ・野菜たっぷり！苦手でも完食できちゃうランチ作り	お弁当作りは大変との声も聴くこともあるが、おきさんとコミュニケーションツールにもなり、完食することでお互い良いメリットが！！空っぽの箱を見て保護者は嬉しくなり、褒める！！褒められることにより子どもたちは自己肯定感が上がり食事への興味も出てくる。ランチ作りではあえて苦手の食材を使って行方が自分たちで切った野菜は〇〇くんが切ったね！おいしいね！上手に切ったね！など会話をすることで食べることができる。スプーンに具をたくさん入れることで食べやすくしている。	お弁当の時間の環境作りを大切にし、一人ひとりに合った声掛けのスキルUP！！食事は楽しい！褒めてもらえてうれし！！を大切に！ランチメニューも偏らず、苦手食材は食べやすくなる工夫！！食べるのが苦手なおきさんはなぜ？なんど？を見極めていく！！

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設内はバリアフリーになってない……	これは弱み・かもしれないが、この環境を活かし活動することでバリアフリーではできない成長を感じることができているように感じる。強みの1にも書いてある通りこの遊びで活用している。	今後もこの環境を大切に一人ひとりに合わせた支援プログラムを考えていく。
2	みなかみ町には児童発達支援・放課後デイサービスの施設がここしかない。	利用希望のある児童の受け入れが100%叶えられないことも多いが、誠意をもって対応させてもらっている。	利根沼田の近隣の事業所と連携を取り、情報共有の場に参加し孤立しないようにしている。保護者や児童の思いに寄り添いつつお互い無理のない範囲で歩み寄りできる限り希望に答えてあげたい。
3	児童の子どもたちにはとても使いやすい遊具が大きくなると（放デイ）小さくなってしまふ。	児童と放デイ・両方同じ施設内にあるので今ある環境を大切にうまく利用していく必要あり。	園庭にバスケットゴール・裏庭にサッカーゴールを設置するなどして高学年も楽しめる工夫をしている。放デイはお出かけの範囲も広く土曜日・長期休暇の時は、高崎・前橋方面から冬は新潟にも出かけ楽しんでいる。